F-REIの最近の動き
（令和8年4月～）

福島国際研究教育機構

Fukushima Institute for Research, Education and Innovation (F-REI)

令和8年4月～5月の出来事

4月1日　分野長・副分野長が就任 6
4月1日　岩手大学と連携協力に関する協定書を締結 7
4月4日　エフともカフェ（浪江町）を開催 8
4月15日　小林文部科学副大臣が来訪 9
4月15日　全国知事会東日本大震災復興協力本部長（大野埼玉県知事）が来訪 10
4月21日～22日　国際アドバイザー（リンドクヴィスト博士）との意見交換を実施 11
4月28日　第4回広域連携ワーキンググループを開催 12
4月28日　福島産業人クラブの経済講演会で山崎理事長が講演 13
4月30日　出前授業（会津学鳳高校）を開催 14
5月19日　福島県議会企画環境委員会が来訪 15
5月20日　F-REIとクロストークを開催 16
5月22日　トップセミナー（会津大学）を開催 17
5月24日　サイエンスラボを開催 18

令和8年6月～7月の出来事

6月1日　分野長が就任 19
6月7日～12日　第23回世界土壌科学会議（WCSS2026）に参加 20
6月17日～18日　トップセミナー（福島工業高等専門学校）を開催 21
6月25日　サイエンスラボ（大熊町）を開催 22
6月28日　国際ワークショップで山崎理事長が講演 23
6月29日　出前授業（安積中学校・高等学校）を開催 24
7月3日　出前授業（原町高等学校）を開催 25
7月5日　未来への風プロジェクトinなみえに参加 26
7月19日　かがくとくらしのまつり かがくまに参加 27
7月21日　F-REIとクロストークを開催 28
7月21日　福島からデジタル時代との学びの変革に参加 29
7月23日～24日　国際アドバイザー（フィオナ・レイモン博士）との意見交換を実施 30
7月25日～26日　国際STEAMワークショップin Fukushima2026に参加 31

令和8年8月の出来事

8月2日　なみえサイエンス縁日に参加 32
8月5日　第7回アドバイザリーボードを開催 33
8月6日　ジャーナリストスクールの受講生が来訪 34
8月8日　小学生ロボコンふくしま予選会に参加 35
8月18日～24日、19日～27日　F-REIサマースクール2026を実施 36
8月19日　F-REI過酷環境ロボティクス国際シンポジウム2026を開催 37
8月19日、25日　研究体験講座を開催 38
8月21日　第2回エフとも通常総会及びエフともカフェ（大熊町）を開催 39
8月22日～23日　電子工作＆プログラミング夏休み教室を開催 40
8月26日　進出企業と地元企業でつながるビジネスフォーラムin白河に参加 41
8月31日　研究拠点のオープニングセレモニーを実施 42

令和8年9月以降の出来事

9月1日～2日 「地域・研究の見える化」と「ミライへの共創」について議論 43
9月6日～9日 日本機械学会2026年度年次大会に参加 44
9月8日～10日 日本土壌肥料学会2026東北大会に参加 45
9月10日、16日、30日 「いわきものづくり塾® F-REI連携・共創コース」で講義を実施 46
9月12日～13日 サイエンスアゴラ2026に参加 47
10月1日 副分野長が就任 48
10月3日 ロボテスフェスタ2026を開催 49
10月13日～16日 CEATEC2026に参加 50
10月14日 トップセミナー（福島県立医科大学）を開催 51
10月15日 F-REI研究者と企業との交流会を開催 52
10月21日 F-REIとクロストークを開催 53
10月31日 福島高専文化祭「磐陽祭2026」に参加 54
11月1日 副分野長が就任 55

令和8年4月1日（水）
分野長・副分野長が就任

4月1日、放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用分野において、分野長1名および副分野長1名、農林水産業分野において副分野長2名が就任しました。
これにより、分野長5名、副分野長11名の構成となります。

放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用分野		【分野長】**茅野　政道**（ちの　まさみち） 福島国際研究教育機構　前副分野長 （放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用分野）
		【副分野長】**伊藤　久義**（いとう ひさよし） 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 前理事
農林水産業分野		【副分野長】**中谷　誠**（なかたに まこと） 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 前副理事長
		【副分野長】**中山　一郎**（なかやま いちろう） 国立研究開発法人水産研究・教育機構 前理事長

令和8年4月1日（水）
岩手大学と連携協力に関する協定を締結

4月1日、岩手大学とF-REIは、岩手大学大学院連合農学研究科の教育研究の一層の充実と大学院生の資質の向上を図るとともに、相互の研究交流の促進をもって、農林水産分野における学術及び科学技術の発展に寄与することを目的に、連携協力に関する協定書を締結しました。

＜主な連携事項＞
・連合農学研究科全専攻における教育・研究の連携
・客員教員制度による研究科指導体制の強化
・学生の研究活動支援

令和8年4月4日（土）
エフともカフェ（浪江町）を開催

4月4日、浪江町の「ノーマの谷」で開催されたイベントと共同で、エフともカフェを開催しました。

当日は、ノーマ・ホースヴィレッジの施設を見学した後、F-REIおよびエフともの取組を紹介しました。また、「ノーマの谷」共同代表の相馬行胤（みちたね）さんと高橋大就（だいじゅ）さんには「人と馬と自然が共生する」というコンセプトや、コミュニティの再生についてお話しいただきました。

後半のディスカッションでは、馬を通じた地域づくりや地域の起業家に対するF-REIからの支援の重要性などについて、活発な議論が交わされました。

今後も、エフともが地域の皆さまをつなぐ場となれるよう、さまざまな団体との交流を深めてまいります。





令和8年4月15日（水）
小林文部科学副大臣が来訪



4月15日に、文部科学省の小林茂樹副大臣が来訪されました。

山崎理事長から、F-REIの現状や取組について説明を行い、意見交換を実施したほか、本施設予定地をご視察いただきました。その後、福島ロボットテストフィールドもご覧いただきました。





今後も文部科学省とも連携しながら、F-REIの取組を着実に進めてまいります。

令和8年4月15日（水）全国知事会東日本大震災復興協力本部長（大野埼玉県知事）が来訪

4月15日、全国知事会東日本大震災復興協力本部長である大野埼玉県知事が来訪されました。

山崎理事長から、F-REIの現状や取組について説明を行い、意見交換を実施したほか、本施設予定地をご視察いただきました。その後、福島ロボットテストフィールドもご覧いただきました。

大野知事からは、「全国の知事にもお知らせしたい」とのコメントをいただきました。

F-REIでは、今後も福島で得られる知見を活かし、実証・実装につながる研究に一層取り組んでまいります。







令和8年4月21日（火）～22日（水）
国際アドバイザー（リンドクヴィスト博士）との意見交換を実施

4月21日～22日、国際アドバイザーのスヴァンテ・リンドクヴィスト博士がF-REIを訪問し、役員等と意見交換を行うとともに、浜通り地域等の視察を行いました。

F-REI側からリンドクヴィスト博士に対し、直近のF-REIの活動状況や施設の整備、研究開発に関する活動等を説明したほか、博士からは、F-REIを国際的な研究拠点にするための方途等について助言をいただくなど、活発な意見交換が行われました。

また、リンドクヴィスト博士に地域の現状の理解をより深めていただくため、東京電力廃炉資料館、福島ロボットテストフィールド、東日本大震災・原子力災害伝承館の視察を行いました。

F-REIは引き続き国際アドバイザーから適切な助言を得つつ、国際化に向けた取組を進めてまいります。





令和8年4月28日（火）
第4回広域連携ワーキンググループを開催

4月28日、第4回広域連携ワーキンググループ（WG）を川内村で開催しました。

今回のWGでは、F-REI及び復興庁からF-REIの事業の進捗状況について報告した後、F-REI、福島県及び福島イノベーション・コースト構想推進機構から広域連携に関する令和7年度の取組の報告・令和8年度事業の説明を行いました。

その後、「「地域に根差したF-REI」となるための連携について」をテーマとし、ワークショップ形式で意見交換を行いました。意見交換では、福島浜通り等の地域にF-REIがどう溶け込んでいくか、参加者の皆さまと和やかに、かつ真剣に議論が交わされ、多くの気付きを得ることができました。

本WGの議論を通じ、福島県浜通り地域を中心とする関係市町村等との連携の取組を進めてまいります。





令和8年4月28日（火）
福島産業人クラブの経済講演会で山崎理事長が講演

4月28日、福島産業人クラブおよび日刊工業新聞社の主催で、経済講演会が福島市において開催され、山崎理事長が講演を行いました。

講演では、「浜通りから始めるF-REIの挑戦」と題し、浜通りを中心に福島・東北の創造的復興をどのように成し遂げるか、その課題や展望について説明しました。

参加された福島の産業界を支える企業の皆さまにとって、F-REIの取組や今後の展望への理解を深めるとともに、浜通りから広がる未来の可能性を感じていただく機会となりました。



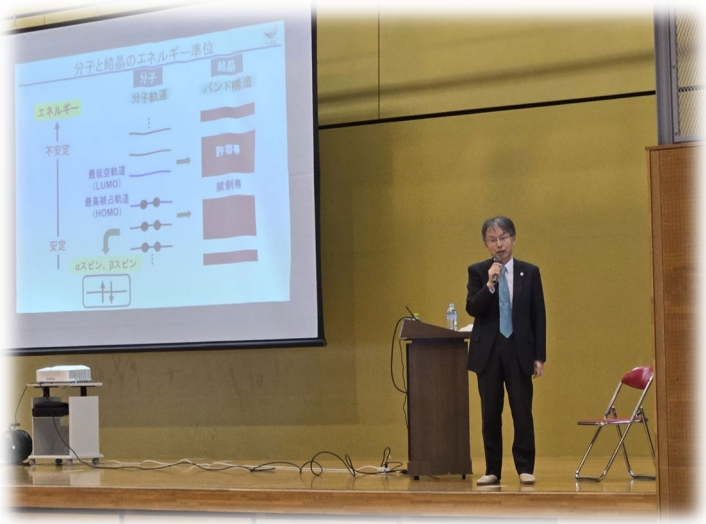


令和8年4月30日（木）
出前授業（会津学鳳高校）を開催

4月30日、会津学鳳高校の全校生徒および会津学鳳中学校の3年生、合計約680名を対象として、出前授業を開催しました。

エネルギー分野の錦谷副分野長が講師を務め、「エネルギーとともに歩んで～石油の街からポケモンの街へ～」の演題のもと、授業を行いました。授業では、エネルギー問題の重要性を説いた上で、広い視点からのエネルギー・デバイスの研究開発状況、およびF-REIにおける研究開発について紹介をしました。

授業終了後には、限られた時間の中でも、受講した学生から複数の質問が出るなど活発な質疑応答の場面も見られ、エネルギー問題の課題や現在の研究状況、そしてF-REIについて知る機会となった様子でした。





令和8年5月19日（火）
福島県議会企画環境委員会が来訪

5月19日、福島県議会企画環境委員会による県内調査として江花委員長等が来訪されました。

髙谷理事から、F-REIの現状や取組について説明を行い、意見交換を実施したほか、本施設予定地をご視察いただきました。その後、福島ロボットテストフィールドもご覧いただきました。

江花委員長からは、F-REIや福島ロボットテストフィールドの進捗について、どのような波及効果が得られているのか注目を浴びている旨のコメントをいただきました。

F-REIでは、今後も福島で得られる知見を活かし、実証・実装につながる研究に一層取り組んでまいります。







令和8年5月20日（水）
F-REIとクロストークを開催

5月20日、なみえFMのYouTube配信企画として、「F-REIとクロストーク」を開催しました。本企画は、F-REIの取組や研究者・職員の人柄などを、地域の皆さまにより身近に感じていただくことを目的としたトークイベントです。

初回には、F-REIの山崎理事長が出演し、パーソナリティーとの対話を通じて、F-REIの研究内容や目指す姿、理事長ご自身についてなど、幅広いテーマでお話ししました。また、収録後には参加者とゲストが直接交流できる時間も設けられ、F-REIの活動や研究に関する質問が寄せられるなど、会場は終始和やかな雰囲気に包まれました。

今後も本企画を通じて、地域の皆さまとの対話を深めながら、F-REIをより身近に感じていただける機会を創出してまいります。





F-REIさんとクロストーク#1 2026.5.20

令和8年5月22日（金）
トップセミナー（会津大学）を開催



5月22日、会津大学コンピュータ理工学部の1年生約250名を対象にトップセミナーを行いました。

F-REIの山崎理事長が講師を務め、「コンピュータ理工学部のみなさんへ～これからどう過ごす？大学ライフのススメ～」の講演題目のもと、講演を開催しました。講演では、モノづくり産業の状況やAIについて含めた日本を取り巻く世界の情勢を踏まえ、大学で何を学び、何を鍛えるのか、己を磨く時、何をどう磨くのか、自身の考えを交えてお話をされました。



講演時間終了後も、山崎理事長に質問をするために受講した学生が長蛇の列を作る様子も見られ、受講した学生たちにとってこれからの大学ライフを考えるきっかけとなったようでした。

令和8年5月24日（日）
サイエンスラボを開催

5月24日、高柳電設工業スペースパーク（郡山市ふれあい科学館）にて、科学ゼミナール「プログラミングを体験してみよう！」が開催されました。今回、F-REIのサイエンスラボとして、「放射線基盤技術開発ユニット」の武田主任研究員と織田主任研究員、アベル研究員が講師を務めました。



当日は、参加者のレベルに応じた2つの講座を同時に実施し、ブロックで組み立てたミニヘリコプター等をプログラムで動かす体験や、電子回路を組みながら、LEDやブザーをプログラムで制御し、電子オルゴールを作る実践的な内容に挑戦しました。



参加した子どもたちは、科学者である講師の話に熱心に耳を傾け、楽しみながらプログラミングへの理解を深めていました。

令和8年6月1日（月）
分野長が就任

6月1日、農林水産業分野において、新たに分野長1名が就任しました。
これにより、分野長5名、副分野長10名の構成となります。

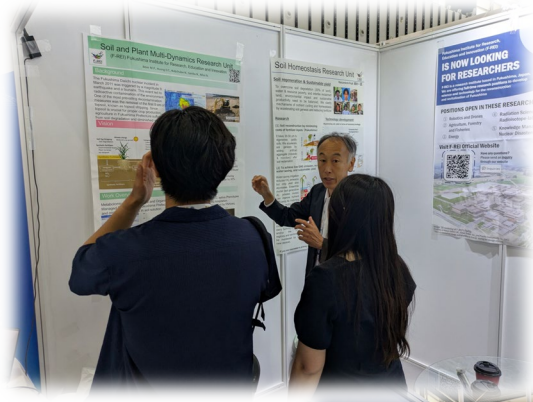
農林水産業分野		【分野長】**中谷　誠**（なかたに まこと） 福島国際研究教育機構　副分野長（農林水産業分野）

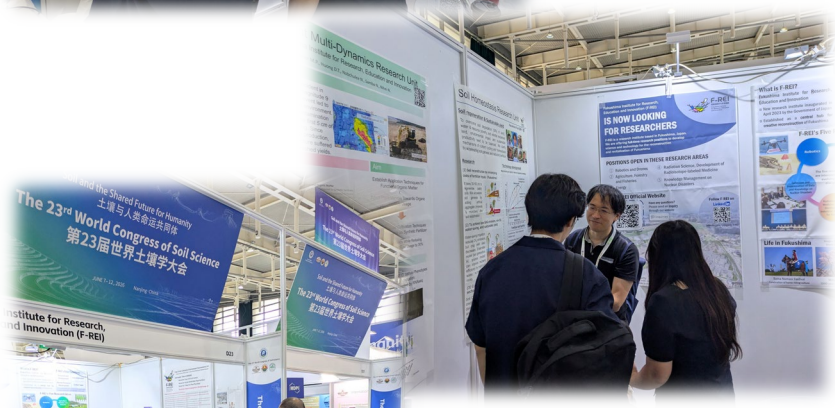
令和8年6月7日（日）～12日（金）
第23回世界土壌科学会議（WCSS2026）に参加

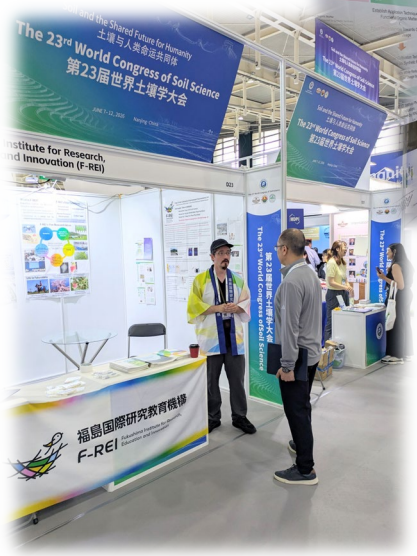
6月7日～12日、中国・南京で開催された「第23回世界土壌科学会議（WCSS2026）」に、F-REIも参加しました。

今回の会議は、「土壌と人類共通の未来」をテーマに開催され、世界各国から研究者や関係者が集まり、土壌に関する最新の研究成果や知見について活発な議論が行われました。

F-REIはブースを出展し、農林水産業における研究活動や取組について紹介するとともに、国内外の研究者や関係機関との交流を深めました。







令和8年6月17日（水）～18日（木）
トップセミナー（福島工業高等専門学校）を開催

6月17日～18日の2日間に分けて、福島工業高等専門学校の3年生を対象にF-REIトップセミナーを開催しました。

17日は、F-REIエネルギー分野の秋田副分野長が講師を務め、電気電子システム工学科、機械システム工学科、化学・バイオ工学科の約50名を対象に「エネルギー問題の状況とF-REIエネルギー分野の研究」の演題で講演を行いました。講演では、地球温暖化の現状や日本における太陽光発電と風力発電の現状を含めたエネルギーシステムの現状を説明したうえで、F-REIのエネルギー分野で行っている研究について紹介しました。

18日は、森下監事が講師を務め、都市システム工学科、ビジネスコミュニケーション学科の約80名を対象に「勉強・研究への心構えについて（含：F-REIの紹介＋最新のAI技術）」の演題で講演を行いました。講演では、学校で学ぶ目的、研究とは何かを伝えるとともに、最新のAI技術についても説明しました。

それぞれの講演に参加した学生たちにとって、新しい知見を得る機会になった様子でした。





令和8年6月25日（木）
サイエンスラボ（大熊町）を開催



6月25日、大熊町立学び舎ゆめの森の放課後児童クラブにてサイエンスラボを開催しました。



今回は、顕微鏡を使って身近な動植物を観察。約15名の児童生徒が参加し、普段はなかなか見ることのできない小さな世界に触れながら、観察を楽しみました。

子どもたちからは「すごい！」「どうして？」といった声が上がり、興味津々の様子で、科学の面白さを感じてもらえる時間となりました。



今後も、地域の子どもたちが科学に親しみ、学ぶ楽しさを感じられるような活動を継続していきます。

令和8年6月28日（日）
国際ワークショップで山崎理事長が講演

6月27日～28日、原子力損害賠償・廃炉等支援機構（NDF）、原子力規制委員会（NRA）及び経済協力開発機構（OECD）原子力機関（NEA）の共催により「15-Year Fukushima Daiichi Accident International Workshop（東京電力福島第一原子力発電所事故後15年の節目に関する国際ワークショップ）」が、双葉町のFUTATABIで開催されました。



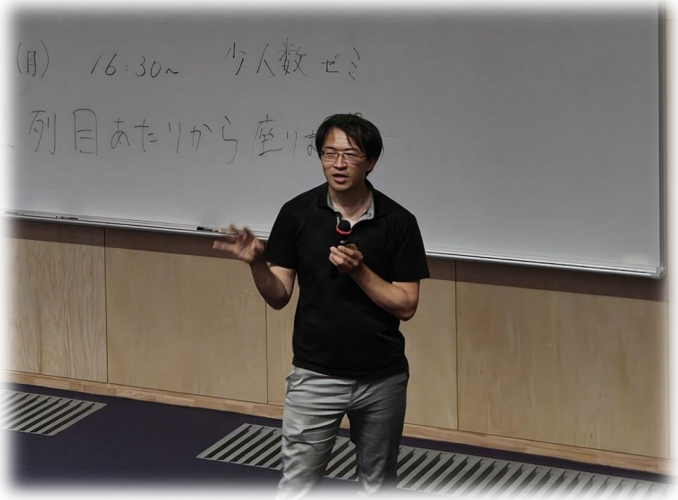
本ワークショップは、事故から得られた教訓を振り返るとともに、これまでの進捗や今後の課題について議論し、廃炉に向けた国際協力の強化を図る場として、国内外の専門家や関係者が参加しました。



28日には、山崎理事長が基調講演を行い、F-REIの取組や今後の展望について紹介しました。

令和8年6月29日（月）
出前授業（安積中学校・高等学校）を開催

6月29日、福島県立安積中学校の1～2年生、高等学校の1～3年生の希望者 約50名を対象として、出前授業を開催しました。



F-REIの土壌ホメオスタシス研究ユニットの藤井一至ユニットリーダーが講師を務め、「福島で土から農業とキャリアをデザインする」という演題のもと、授業を行いました。授業では、土とは何か、世界の土・日本の土・福島の土の状況を紹介するとともに、土について研究することで何ができるのかについて説明されました。



今回の出前授業に参加した学生は、農学部への進学を検討している学生、農学に興味・関心の高い学生が多く、様々な質問や意見交換が行われました。参加した学生にとって、自身の進路や興味のある分野を見つめ直す機会になった様子でした。

令和8年7月3日（金）
出前授業（原町高等学校）を開催

7月3日、原町高等学校の1～3年生の希望者 約20名を対象として、出前授業を開催しました。

F-REIの大規模災害レジリエンス研究ユニットの葛西優香研究員が講師を務め、「浪江町におけるまちづくり・防災～自身の役割とは？～」という演題のもと、授業を行いました。授業では、震災後～現在までの双葉郡の状況を紹介しつつ、東日本大震災を始めとした様々な災害の経験を活かし、災害時にも助け合えるまちをつくるには何をすれば良いか、災害に備えて日頃からできることは何かを説明されました。

東日本大震災から15年が経過した現在、災害に備えて自分たちに何ができるか、万が一災害が起こってしまった時には何ができるかを改めて考えるきっかけとなった様子でした。





令和8年7月5日（日）
未来への風プロジェクトinなみえに参加







7月5日、浪江町地域スポーツセンターにおいて「未来への風プロジェクトinなみえ」が開催され、F-REIもドローン体験で出展しました。

今回のイベントは、子どもたちに科学やスポーツを楽しく学んでもらい、「未来への風」を起こしていくことを目的として開催されました。当日は100名以上が来場し、ドローン操縦体験やロケットを飛ばす体験、野球やサッカー体験に多くの子供たちが参加し、頭と体をフル回転させていました。また、スペシャルゲストの『おかあさんといっしょ』第11代目体操のお兄さん「小林よしひさ」さんによる体操の時間も大いに盛り上がり、浪江町に風が吹き抜ける1日となりました。

「エフとも」では、地域の未来を明るくすべく、このような楽しく科学を学べるイベントにも積極的に参加し、経験を積むことで教育プログラムをブラッシュアップしてまいります。

令和8年7月19日（日）
かがくとくらしのまつり かがくまに参加

7月19日、大熊町のCREVAおおくまで開催された「かがくとくらしのまつり かがくま！」に、エフとも協力のもとブース出展しました。

本イベントは、小さなお子様を持つ親子連れを対象として開催され、総勢237名の方々にご来場いただきました。
F-REIのブースでは、偏光フィルムと紙コップを使ったオリジナル万華鏡づくりを実施し、光の特性を学びながら、くるくると色が変化する様子を楽しんでいただきました。





イベントの最後には紙飛行機対決が行われ、各出展団体がそれぞれ「よく飛ぶ紙飛行機」の折り方を紹介し、参加者は好きな折り方を選んで挑戦。思い思いに紙飛行機を飛ばし、会場は歓声と笑顔に包まれました。

「エフとも」では、これからも地域の子どもたちに対して科学を身近に感じられる体験を提供し、楽しみながら学べる機会を届けてまいります。

令和8年7月21日（火）
F-REIとクロストークを開催

7月21日、「第2回F-REIとクロストーク」を開催しました。
今回は、F-REIで教育・人材育成に取り組むエデュケーション・アドミニストレーターの有銘（ありめ）さんと、科学や研究の魅力を分かりやすく発信するサイエンスコミュニケーターのAdela（アデラ）さんが出演しました。

パーソナリティーとのトークでは、F-REIの教育・人材育成の取組や、それぞれの仕事、これまでの経験などについて幅広くお話しいただきました。

当日は、参加者とゲストによる交流の時間も設けられ、さまざまな質問が寄せられるなど、和やかな雰囲気の中で交流を深める機会となりました。



F-REIさんとクロストーク#2 2026.7.21

令和8年7月21日（火）
福島からデジタル時代との学びの変革に参加

7月21日、F-REIが共催する「福島からデジタル時代の学びの変革」がコラッセふくしま（福島市）で開催されました。



「学びの変革」とは、福島県が推進する教育政策であり、全ての子どもに必要な資質・能力を育むため、一方通行で画一的な授業から、一人ひとりに応じた学びや協働的な学び、探究的な学びへと変換する取り組みです。

本セミナーでは、教育DXが学びの変革にもたらす可能性について、全国の先進事例や文部科学省における次期学習指導要領の検討状況などを踏まえながら、県内の教育関係者による活発な議論が行われました。パネルディスカッションでは、F-REIの髙谷理事がモデレーターを務め、教育関係者やデジタル教育ルーツを提供する企業の関係者とともに、教育現場が抱える課題や解決に向けた取り組みについて意見を交わしました。



令和8年7月23日（木）～24日（金）
国際アドバイザー（フィオナ・レイモン博士）との意見交換を実施

7月23日～24日、国際アドバイザーのフィオナ・レイモン博士がF-REIを訪問し、役員等と意見交換を行うとともに、浜通り地域等の視察を行いました。

F-REI側からレイモン博士に対し、直近のF-REIの活動状況や施設の整備、研究開発の状況について説明したほか、F-REIを国際的な研究拠点にするための方途及び国際人材の確保等について活発な意見交換が行われました。

また、レイモン博士に地域の現状の理解をより深めていただくため、震災遺構・浪江町立請戸小学校、福島県復興祈念公園、會澤高圧コンクリート株式会社、JAEA廃炉環境国際共同研究センター（CLADS）富岡施設の視察を行いました。

F-REIは、引き続き国際アドバイザーから適切な助言を得つつ、国際化に向けた取組を進めてまいります。





令和8年7月25日（土）～26日（日）
国際STEAMワークショップin Fukushima2026に参加

7月25日～26日、原子力損害賠償・廃炉等支援機構（NDF）が主催する「国際STEAMワークショップ in Fukushima 2026」がCRAVAおおくまで開催されました。



昨年度に続き、F-REIの山崎理事長が国内共同議長を務め基調講演を行ったほか、土壌・植物マルチダイナミクス研究ユニットの二瓶直登ユニットリーダー、放射線基盤技術開発ユニットの武田伸一郎主任研究員もメンターとして参加し、講演およびグループディスカッションにおける参加学生のサポートをしました。



本ワークショップは、全国の高校生の理工系分野への進出を後押しし、科学技術の発展を担う次世代のSTEAM人材を拡充・育成することを目的に実施されており、福島県内外および海外から計67名の学生が参加しました。参加した学生は、メンター等の講演やグループディスカッションでの交流をとおして学ぶとともに、プログラムの最後に行われたラウンドテーブル（全員参加型の質疑応答）では自身のキャリア形成に関する疑問や不安等について質問し、世界で活躍する研究者方の意見を聞くことで新たな視点や気づきを得ることができた様子でした。

令和8年8月2日（日）
なみえサイエンス縁日に参加

8月2日、浪江町のBASEまちなかで開催された子ども向け科学イベント「なみえサイエンス縁日」に、ブース出展しました。

F-REIブースでは「偏光フィルムと紙コップを使った万華鏡づくり」を実施しました。参加した子どもたちは、偏光フィルムを通した光の見え方の変化について学びながら、自分だけの万華鏡づくりに挑戦し、万華鏡をくるくると回すたびに色や模様が変化する不思議な様子を楽しんでいました。

このほか、会場では、サイエンスショーや英語を使ったビンゴゲームなど、科学や学びを楽しく体験できるさまざまな企画が行われ、子どもたちは興味のあるブースを自由に巡りながら、思い思いに科学の世界に触れていました。





令和8年8月5日（水）
第7回アドバイザリーボードを開催



8月5日、F-REIは今年度初となる
第7回アドバイザリーボードを開催しました。

当日は、アドバイザー４名と山崎理事長を
はじめ、役員、執行役、広域連携監、
分野長、副分野長等が出席しました。

第7回は「機構全体のマネジメント」をテーマとして、意見交換が行われました。
まずはF-REIから、最近の動向、研究成果の最大化に向けた研究開発の取組、
運営マネジメントについてご説明しました。その後、小安アドバイザーから、複数の
拠点を持つ量子科学技術研究開発機構（QST）における研究開発マネジメント
についてオンラインでご講演いただきました。

アドバイザーの皆様からは、F-REIの組織運営における課題解決のヒントとなる
ご提案、ご助言を賜ることができました。

令和8年8月6日（木）
ジャーナリストスクールの受講生が来訪

8月6日、福島県が主催する「ジャーナリストスクール」の受講生4名が、F-REIを訪問しました。

当日は、髙谷理事から、F-REIが設立された背景や役割、研究内容について説明しを行いました。受講生の皆さんは、熱心に耳を傾けながら「なぜ浪江町にF-REIが設立されたのか」「自分たちには何ができるのか」など、次々と質問を投げかけ、ジャーナリストとして積極的に取材を進めました。

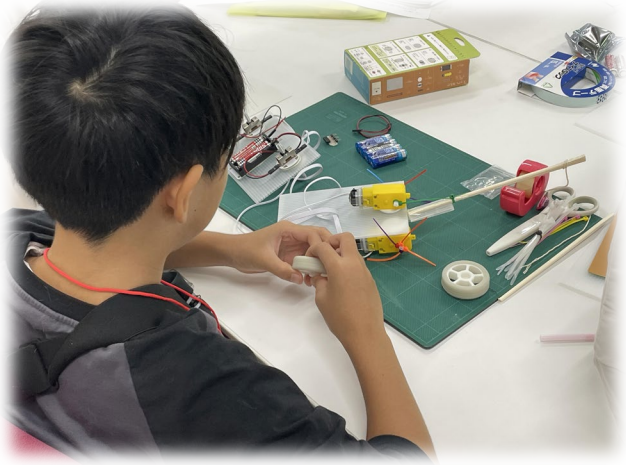
また、建設が進むF-REI本施設の予定地も見学し、施設の規模感や概要について説明を受けました。受講生の皆さんは、建設現場を実際に見ることで、F-REIが目指す研究拠点の姿への理解を深めました。



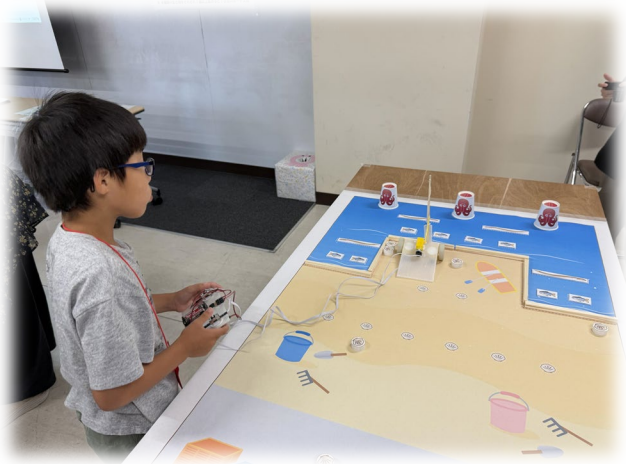


令和8年8月8日（土）
小学生ロボコンふくしま予選会に参加

8月8日、福島工業高等専門学校主催の「小学生ロボコンふくしま予選会」が開催され、F-REIは審査員・運営スタッフとして参加しました。「小学生ロボコン」は、ロボットづくりや競技を通じて、子どもたちがものづくりの楽しさや創意工夫の大切さを体験できるイベントです。



午前はロボットづくりのワークショップを実施し、子どもたちは試行錯誤を重ねながら、自分だけの「とっておきのロボット」を完成させました。午後の競技大会では、ロボットが思うように動かず悔し涙を流す場面もあり、それでも最後まであきらめず挑戦する姿が印象的でした。



また、今回の予選会では、特別賞として「エフレイ賞」を設け、受賞したいわき市の児童1名には、副賞として、8月22日（土）・23日（日）に開催する中・高校生対象の「電子工作＆プログラミング夏休み教室」へ特別招待しました。電子工作やプログラミングを通じて、さらに科学への興味や関心を広げてもらう機会となりました。

令和8年8月18日(火)～24日(月)、19日(水)～27日(木)
F-REIサマースクール2026を実施

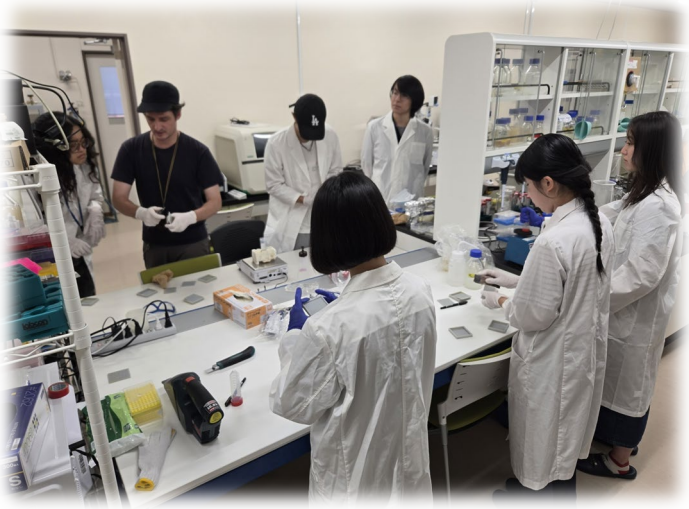
F-REIでは、全国の大学生、大学院生等を対象とした短期研究体験プログラム「F-REIサマースクール2026」を実施しました。

今回は、地域環境共創ユニットで2名、土壌・植物マルチダイナミクス研究ユニットで6名の学生をそれぞれ受け入れました。

各研究ユニットの専門分野を生かしたプログラムの中で、F-REIの研究者による指導のもと、実験、フィールドワーク、サンプル採取、データ解析などF-REIで行われている研究活動を体験しました。

参加した学生の皆さまにとって、研究活動およびF-REI研究者や参加者同士の交流は研究の面白さや将来のキャリアを考え、視野を広げる機会となりました。





令和8年8月19日
F-REI過酷環境ロボティクス国際シンポジウム2026を開催

8月19日、「F-REI過酷環境ロボティクス国際シンポジウム2026～フィジカルAIが災害対応ロボットの未来を切り拓く～」を東京都内で開催しました。



本シンポジウムでは、世界各国からロボティクス分野の第一線で活躍する研究者を迎え、災害対応における過酷環境ロボティクスの最先端技術や将来展望について、講演や意見交換を行いました。

F-REIからは、ロボット分野の野波健蔵分野長や松野文俊副分野長、富塚誠義ユニットリーダーが登壇したほか、各研究ユニットによるポスター発表やデモンストレーションを実施し、研究成果や取組を紹介しました。

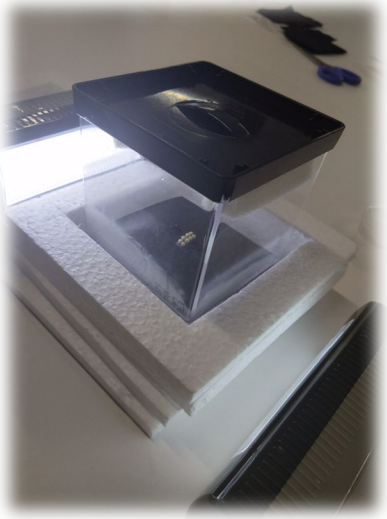
国内外の研究者や学生、企業関係者などとの活発な交流を通じて、過酷環境ロボティクスのさらなる発展につながる貴重な機会となりました。

令和8年8月19日（水）、25日（火）研究体験講座を開催

8月19日、25日、福島県環境創造センターにて、福島県、日本原子力研究開発機構（JAEA）、国立環境研究所（NIES）およびF-REIの4機関連携による研究体験講座が開催されました。



F-REIのコースでは、地域環境共創ユニットの青野辰雄ユニットサブリーダーが講師を務め、「放射線を探せ-ノーベル賞の発明を100均で作ろう-」のタイトルのもと、「放射線計測器による放射線の測定により、その特徴を理解する実験」、「身近な材料による霧箱の作成及び霧箱を用いた放射線の観察」を行いました。



本コースには、会津高等学校の学生5名、磐城高等学校の学生3名が参加し、霧箱作成や放射線の測定を通じて放射線への理解や興味を深めておりました。

令和8年8月21日（金）
第2回エフとも通常総会及びエフともカフェ（大熊町）を開催

8月21日、第2回エフとも通常総会を大熊町で開催しました。



総会では、エフとも事務局からこれまでの活動や今後の予定を報告したほか、新副会長の選任、新規参画団体からそれぞれの活動や取組をご紹介いただきました。新たな団体の参画により、エフともの参画団体は【39団体】となりました。





総会終了後には、「エフともカフェ」を開催しました。今回は、大阪大学核物理研究センター長・大阪大学福島拠点長の中野貴志先生と、エフとも副会長で福島大学特任准教授の松下朋子先生にご登壇いただき、新しいがん治療の研究やまちづくりのあり方・機能・可能性をテーマにお話しいただきました。

会場では、双葉町のコーヒー店「open roastery Alu.」によるコーヒー販売や、DJ MASAによるBGMもあり、和やかな雰囲気の中、参加者同士が交流を深めました。

令和8年8月22日（土）～23日（日）
電子工作＆プログラミング夏休み教室を開催

8月22日～23日、「電子工作＆プログラミング 夏休み教室」を浪江町で開催しました。





本教室は、浪江町教育委員会とF-REIが協力して実施した、中学生・高校生を対象とする2日間のプログラムです。当日は、F-REIの放射線基盤技術開発ユニットの武田伸一郎主任研究員が講師を務め、２名の中学生及び小学生ロボコンふくしま予選会でエフレイ賞として特別招待した児童１名が参加しました。

参加した子供たちは、”Python（パイソン）”というプログラミング言語を使って小型コンピューター「Raspberry Pi Pico（ラズベリーパイ ピコ）」を制御し、電子オルゴールやモーターで動く模型自動車の製作に挑戦しました。

実際に手を動かし、研究者を身近に感じながら電子工作やプログラミングの基礎を保護者と一緒に楽しく学んでいました。

令和8年8月26日（水）
進出企業と地元企業でつながるビジネスフォーラムin白河に参加

8月26日、福島県が主催する「進出企業と地元企業でつながるビジネスフォーラム in 白河」が白河市で開催されました。

F-REIからは、国際・産学官連携推進課の関口課長が登壇し、「創造的復興への挑戦 ～F-REIの取組紹介～」をテーマに、F-REIが進める研究開発や産学官連携の取組について紹介しました。

当日は、オンラインを含め約70名が参加し、進出企業・地元企業による事例発表やビジネス交流会も行われ、F-REIとの連携に関心を持つ企業関係者と情報交換を行い、交流を深める機会となりました。





令和8年8月31日（月）
研究拠点のオープニングセレモニーを実施

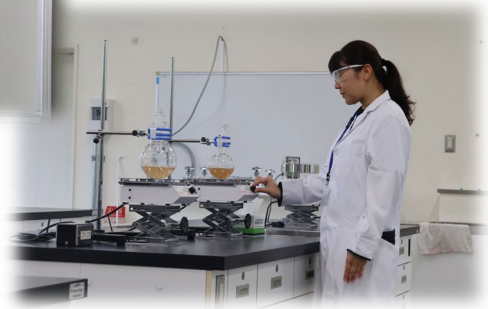
8月31日、F-REIの森林資源活用ケミカルイノベーションユニットが活動する福島工業高等専門学校内の研究拠点のオープニングセレモニーを実施しました。

当日は、内田いわき市長をはじめ、F-REIから山崎理事長など関係者が出席したほか、新井隆ユニットリーダーが、本拠点で進める研究の概要や今後の展望について説明しました。

本拠点には、有機化学に関する研究者や技術者が常駐し、福島の森林資源活用に向けた研究を推進します。また、今後、研究の加速化と若手人材の育成に向けて、福島工業高等専門学校との連携も進めていきます。







令和8年9月1日（火）～2日（水）
「地域・研究の見える化」と「ミライへの共創」について議論

9月1日～2日、「地域・研究・未来をつなぐ見える化」をテーマに、F-REIの研究者や役職員が研究開発の「見える化」や、地域・企業・関係機関等との共創について考え、意見を交わすイベントを都内で開催しました。このようなイベントの開催は、F-REIとして初めての試みです。



当日は、F-REIが進める研究開発をどう「見える化」するか、5つの研究分野からそれぞれの考えや取組を発表しました。また、外部から講師を招き、さまざまな主体との共創を通じて社会実装につなげている先進的な取組や、その手法についてご講演いただきました。



参加したF-REIの研究者や役職員からも多くの質問や意見が寄せられ、分野を越えて考えを共有する機会となりました。今後も、分野間の連携や外部機関との協働など、共創に向けた取組を加速させ、研究成果の産業化、社会実装を目指します。

令和8年9月6日（日）～9日（水）
日本機械学会2026年度年次大会に参加

9月6日～9日、東海大学湘南キャンパスで開催された「日本機械学会2026年度年次大会」において、F-REIによるランチョンセミナーを開催しました。

7日には、ロボット分野の野波健蔵分野長が「F-REIにおけるロボット分野の取組」をテーマに講演。また、8日には、エネルギー分野の矢部彰分野長が「F-REIが福島で実現したいエネルギー技術開発目標」をテーマに講演し、それぞれの分野でF-REIが進める研究開発や今後の展望について紹介しました。





令和8年9月8日（火）～10日（木）
日本土壌肥料学会2026東北大会に参加

9月8日～10日、福島大学で「日本土壌肥料学会2026年度東北大会」が開催され、F-REIでは公開シンポジウムの後援とランチョンセミナーを開講。 F-REIの挑戦と福島発の研究が切り拓く農業の未来を多くの参加者に知っていただく貴重な機会となりました。

公開シンポジウムでは、F-REIから山崎理事長をはじめ、信濃卓郎ユニットリーダー、藤井一至ユニットリーダーらが登壇。行政や報道などさまざまな立場の関係者とともに、「福島の農業復興研究とこれから」というテーマで、パネルディスカッションを行い、活発な意見交換が繰り広げられました。

また、公開シンポジウムに先立ち開催した、F-REIによるランチョンセミナーでは荒尾知人副分野長をはじめ、二瓶直登ユニットリーダー、藤井一至ユニットリーダー、河地有木ユニットリーダーらが登壇。F-REIが進める農業や植物に関する研究について、それぞれの研究者から紹介しました。







令和8年9月10日（木）、16日（水）、30日（水）「いわきものづくり塾® F-REI連携・共創コース」で講義を実施

9月より、F-REIと地域企業との共創・連携を目指す「いわきものづくり塾® F-REI連携・共創コース」がスタートしました。

本コースは、福島県の「F-REI地域連携加速化事業補助金」を活用し、F-REIの研究・知見を起点に、地域企業との連携テーマや事業構想の創出等を目指す全8回のプログラムです。9月10日、16日、30日には、F-REIから3名の講師が登壇し、ロボット、F-REIの研究活動、エネルギーをテーマに講義を行いました。

今後は、参加者の皆さんが講義で得た知見をもとに、具体的な事業構想を検討する応用ワークショップのほか、浜通り地域の企業・団体等との共創・マッチングを目指す「HAMA-HUB」、成果発表・交流セッションなどが予定されています。F-REIとしても、今回の講義が新たな事業構想や地域での連携・共創に繋がっていくことを期待しています。





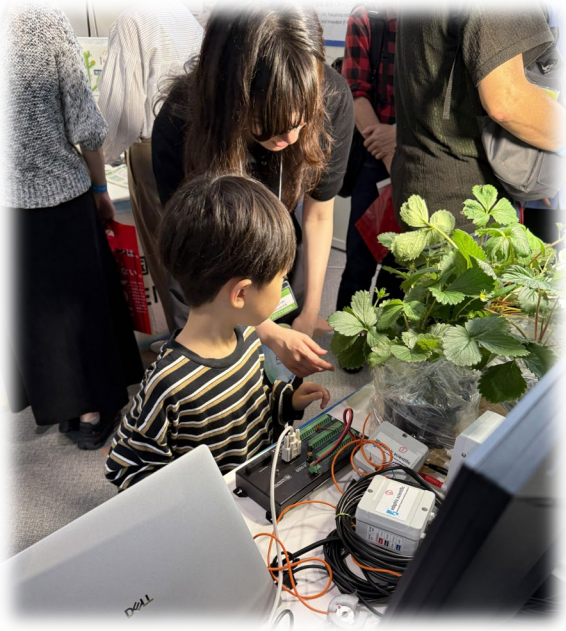


令和8年9月12日（土）～13日（日）
サイエンスアゴラ2026に参加

9月12日～13日に開催されたサイエンスアゴラ2026（主催：JST）に植物イメージング研究ユニットがブース出展しました。

2日間で、小さなお子さまから大人まで400名を超える皆さまにお越しいただきました。「楽しかった！」という声のほか、「植物のひみつを解き明かすことが、どんなことにつながるの？」「植物の中を見る仕組みはどうなっているの？」といった質問も多く寄せられ、研究者との交流を楽しんでいただきました。

今後の研究者たちの活躍や、植物イメージング研究ユニットの研究にもぜひご注目ください。





令和8年10月1日（木）
副分野長が就任

10月1日、放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用分野において、
副分野長1名が就任しました。

放射線科学・創薬医療、 放射線の産業利用分野		【副分野長】安永 正浩（やすながまさひろ） 国立がんセンター先端医療開発センター 新薬開発分野長

令和8年10月3日（土）
ロボテスフェスタ2026を開催



10月3日、福島ロボットテストフィールドで開催された「ロボテスフェスタ2026」にブースを出展しました。

ロボテスフェスタは、福島ロボットテストフィールドの特色や、ロボット・ドローンに関する先進的な取組について、楽しみながら知ることができるイベントです。





ステージ企画では、F-REIや福島ロボットテストフィールドについて楽しく学べるクイズ大会を実施しました。クイズに先立ち、F-REI職員が機構の概要や取組を紹介し、その内容をヒントに、子どもから大人まで幅広い世代の方々にクイズに挑戦していただきました。

今回のイベントを通じて、幅広い世代の皆さまにF-REIの取組を知っていただく貴重な機会となりました。

令和8年10月13日（火）～16日（金）CEATEC2026に参加

10月13日～16日、幕張メッセで開催された国内最大級の産業展示会「CEATEC2026」において、福島県との合同ブースを出展するとともに、トークセッションを行いました。

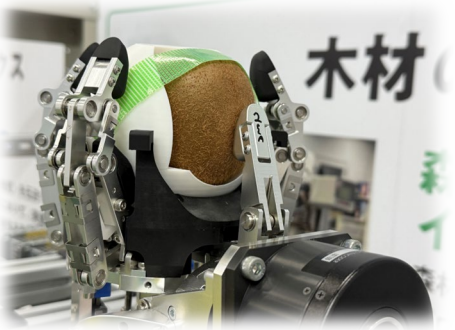
13日（火）のトークセッションでは、F-REIの江村克己理事や浜通り地域等で活躍する企業の方々が登壇し、研究・実証の場としての福島の魅力や将来性について議論したほか、研究開発から事業化まで各段階に応じた支援制度や、復興途上にある地域に多様な人材が集まることによるイノベーション創出について意見が交わされました。

合同ブースでは、福島イノベ構想の支援制度やF-REIの研究活動を紹介したほか、F-REIの「遠隔操作研究ユニット」が開発を進める、果実の収穫適期を見極める「スマートハンドロボット」のデモ展示などを行いました。

4日間で約865名の方にご来場いただき、新たな技術の実証フィールドを探している企業やスタートアップ、研究機関の皆さまに向け、福島イノベ構想やF-REIの取組を広く知っていただく機会となりました。







令和8年10月14日（水）
トップセミナー（福島県立医科大学）を開催

10月14日、福島県立医科大学の医学部・看護学部の1年生約210名を対象に、F-REIの髙谷浩樹理事が講演を行いました。

講演では、F-REIが取り組む「放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用分野」の研究を紹介したほか、東日本大震災や原発事故当時の経験を振り返りながら、「知識は視野を広げるが、同時に視野を縛る。」という教訓を学生たちに伝えました。また、F-REIが福島県立医科大学などと連携して目指す、最先端の放射線医療の未来についても紹介しました。





令和8年10月15日（木）
F-REI研究者と企業との交流会を開催

10月15日、第15回ふくしま再生可能エネルギー産業フェア（REIFふくしま2026）の会場であるビッグパレットふくしまで、「F-REI研究者と企業との交流会」を開催しました。

本交流会では、F-REIの「エコ水素エネルギー材料・デバイス研究ユニット」の内本喜晴ユニットリーダー等から、研究内容や必要とする技術などを紹介しました。その後、参加企業との個別面談を行い、各企業から事業内容や保有技術を紹介いただくとともに、F-REIの研究活動との接点や今後の連携可能性について意見交換を行い、相互理解を深める機会となりました。

F-REIでは、研究開発の推進や研究成果の社会実装に向けて、今後も研究者と企業との交流機会を設け、新たな連携やイノベーションの創出を目指してまいります。





令和8年10月21日（水）
F-REIとクロストークを開催







10月21日、「第3回F-REIとクロストーク」を浪江町で開催しました。

今回は、浪江駅西側で整備を進めているF-REIの本施設をテーマに、施設整備を担当する柳沼一幸主任が登壇しました。柳沼主任のこれまでの歩みをはじめ、今後どのような施設ができるのか、現在の整備状況などについて、お話しいただきました。

前回同様に夕方の開催としたことで、お仕事帰りの方にも多くご参加いただきました。収録後には、参加者とゲストとの交流の時間を設け、さまざまな質問が寄せられるなど、会場は大いに盛り上がりました。和やかな雰囲気の中、参加者の皆さまと交流を深める貴重な機会となりました。

令和8年10月31日（土）
福島高専文化祭「磐陽祭2026」に参加

10月31日、福島工業高等専門学校（福島高専）で開催された「盤陽祭」にて、同校内に研究拠点を置く「森林資源活用ケミカルイノベーションユニット」がブース出展を行いました。



新井隆ユニットリーダーによるユニットの研究紹介を中心に、特殊な溶媒に浸したトイレットペーパーが溶ける様子を観察する実験、セルロースの分子模型工作教室を実施し、子どもから大人まで幅広い世代の皆さまに化学を身近に体験していただきました。特にセルロースの分子模型工作教室は、炭素・酸素・水素の3つの元素パーツを化学構造式に従って組み立てるもので、パーツ数が多く構造も複雑なため「できるかな…」と不安そうな表情を見せる学生さんもいらっしゃいましたが、研究員やスタッフのサポートを受け四苦八苦しながらも、多くの皆さまが見事、時間内に完成させることができました。完成した模型を手に、達成感にあふれる笑顔を見せていた姿がとても印象的でした。



令和8年11月1日（日）
副分野長が就任

11月1日、ロボット分野において、副分野長1名が就任しました。

ロボット分野		【副分野長】村上 弘記（むらかみ　ひろき） 株式会社IHI技術開発本部 技監


F-REI
福島国際研究教育機構